

研究活動と研究環境

(表24)

所属	心理子ども学科	職名	教授	氏名	濱田誠二郎	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概要				
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年4月	ふりかえりシート、質問カード等により、少人数を生かしたきめ細やかな指導を実践している。				
2	作成した教科書、教材、参考書	2015年6月	『心理学を生かしたクラスづくり』(単著)より授業用資料を作成して配布。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
1)	明石教育プランの啓発(講演)	2011年5月	平成18年に「教育基本法」が改正された。それに伴い、教育振興基本計画の策定が努力義務となった。この策定プロジェクトのリーダーを任命された経過で、市内13中学校区それぞれ説明講演を実施した。この計画の特徴は文部科学省からではなく、内閣府から区市町に向けられた行政の計画である。すなわち、予算面でも、この計画をもとにして算定される現場教師にとっては苦手な分野をできる限りわかりやすく講演した。				
2)	幼稚園における危機管理(講演)	2011年9月	幼児期から学童期前半において、母子密着型の不安を抱える園児が多い。保育の充実は保護者との関係性に大きく影響される。危機管理の中でも、クライシスマネジメントではなく、リスクマネジメントを中心しつつ、事故より人間関係、とくに保護者とのトラブルに対応を検討した。さらに、相談、要望、無理難題を区別してそれぞれに対応する方策を示した。				
3)	児童・生徒に自尊感情を育む(講演)	2011年8月	自分の存在を受け入れてもらえない、大切にされない、いじめられるなどの経験をした子供たちの自尊感情は低くなる。そして、低くなった自尊感情を保とうとするために、さらに自分より弱い立場の他者に対して向かったり、自分を守るために不登校やひきこもりなどによって社会との接点をもたなくなったりする状況が見られる。人と人が違いを受け止め合う大切さを事例を通して講演した。				
4)	道徳の模範授業と指導(心理教育)	2011年8月	平成30年度より道徳が教科化される。他教科・領域に比べて軽視されがちであったが、より道徳の指導は、価値項目の教え込みや説諭ではなく、児童・生徒が、今の自分にはできないだろうけど、資料に登場する人物のような生き方をしたいと願えるような価値の耕しが必要である。具体的には、道徳授業と道徳教育の違い。本時での葛藤場面をどのように設定するか等を講演した。				
5)	学校教育の今、事務新時代(ワークショップ)	2011年11月	日本全体が不景気の時代、教育予算も同様である。学校事務職員を対象に、学校予算運用における軽重をワークショップ形式で情報交換・共有の場へと導いた。さらに、大きな課題として学校園での事務職は一人職がほとんどで、教員との人間関係づくりに少なからず戸惑いや悩みを抱えている現状がある。そこで、コミュニケーションスキルの習得をめざして構成的エンカウンターグループのワークショップを実施した。				

6)子どもとの人間関係づくり、授業づくり（講演）	2012年5月	SSTはソーシャルスキル教育とも言われ、社会性、特に対人関係の力を意識的につけていくための取り組みであり、特別支援教育だけでなく、学校教育全般で今注目されつつある。その実施するグループの年齢やニーズにあわせて、「話の聞き方」「誘い方」「断り方」「怒りのコントロール」など対人場面で大切なスキルがよくとりあげられる。人間関係が希薄といわれる時代に、コミュニケーションツールとしてのSSTの普及を目指した。
7)幼児期における心の健康教育（講演）	2012年11月	ピアジェは発達の時期を、0歳から2歳ぐらいまでの「感覚運動期」、2歳から7歳ぐらいまでの「前操作期」、7歳ころから11歳ぐらいまでの「具体的操作期」、11歳頃から15歳ぐらいまでに成立する「形式的操作期」と、4つの段階に分けた。これらの中で、幼児教育で最も大切にしたい時期が4歳である。心の発達、認知能力でも大きな転機となるので、留意するポイントを講演した。
8)人間関係づくりに役立つ構成的エンカウンターグループ（ワークショップ）	2012年11月	構成的グループエンカウンター（模範授業を公開） 1 本時について 本来の授業は、子どもと教師が培ってきた学級を公開するものですが、本時は、指導者と児童が初対面であることから、アイスブレイクに多めの時間をとった。SGE（構成的グループエンカウンター）を教師が身近に感じ、実践できることを願い、実践した。2 エクササイズのねらい 自分と同じような考えかたや好みを持つ仲間が存在に気づくとともに、違った考え方や好みをもつ仲間がいることも知ることで、相互理解を深める。
9)中学校PTA人権研修会 思春期を迎えた子どもたちの自己有用感を育むために（講演）	2012年12月	自己有用感をはぐくむ上で、家庭で有効なこと I 温かさのあるスキンシップ II 親子で一緒に過ごす。 自己有用感をはぐくむ上で、大切なことばの紹介とロールプレイ。＜例＞こどもが大人に言われて一番うれしいことば「ありがとう」「助かったよ」 いやなことばは「早くしなさい。」家庭でできる小さなことを紹介し体験した。
10)学級づくりにいかすSSTとエンカウンター（ワークショップ）	2013年8月	構成的グループエンカウンターには多くのエクササイズがある。自己中心的な考え方が社会全体に広がりつつある現代において、自分と同じような考えかたや好みを持つ仲間が存在に気づくとともに、違った考え方や好みをもつ仲間がいることも知ることで、相互理解を深められるようなエクササイズを計画・立案し実施した。
11)保護者との連携のポイント（講演）	2013年10月	激動する社会は子どもだけではなく、大人たちをもストレスフルな状態にさせる。学校へのクレームもその影響を少なからず受けている。本稿は、保護者から学校に寄せられる内容を類別し、それぞれの方策を実施した。主な類別は、1 要望 2 相談 3 無理難題。ここで、学校が真摯に向き合うべきものは、1と2なので、教師をめざす学生にとって、学校園で実践した。
12)明石市立高丘東小学校SST研修会（講演）	2013年10月	SSTはソーシャルスキル教育とも言われ、社会性、特に対人関係の力を意識的につけていくための取り組みであり、特別支援教育だけでなく、学校教育全般で今注目されつつある。その実施するグループの年齢やニーズにあわせて、「話の聞き方」「誘い方」「断り方」「怒りのコントロール」など対人場面で大切なスキルがよくとりあげられる。人間関係が希薄といわれる時代に、コミュニケーションツールとしてのSSTの普及を目指した。

13) クリティカルシンキングを活用した保護者・人との連携 (講演) 海星女子学院大学	2014年12月	臨床心理学用語は日本語に訳しにくい言葉が多い。クリティカルシンキングは考え方の選択肢を増やすのに有効である。人はそれぞれ思考のパターンがあり、時にはそれが、問題解決の遅れに発展してしまうことがある。それを解消するためには、「自分の視点は一方向で見ていないだろうか?」「個人的な好き嫌いで判断していないだろうか?」「思い込みはないだろうか?」と、自分自身に対して客観的・批判的な目を向けてみる。保護者との連携を円滑にするために、大いに有益な教育技術といえる。			
14) キャリア教育とインターンシップ (講演) 関西福祉大学	2015年6月	教員養成課程の2回生にとって、教員が抱えている課題やその方策に関心は向いていない。現代、キャリア教育は小学校から課題教育として位置づけられている。激動の社会において、30年後には今ある職業の半分は消えていると提唱する学者もいる。教職に就く前にインターンシップとして現場を体験することは、真に教職に就きたいか否かを自分見つめる良い機会となる。学生には、学校現場で何をどのように観察・体験するかを示唆することでより客観的に将来を考えられることを願い講義した。			
15) 学校の危機管理 (講演) 関西学院高等部	2015年8月	高校生にとってSNSは時として「いじめ」の温床となる。だれかといつもつながっていたいという動機で気軽に始めたSNSは時として人間関係の亀裂を生む。さらに、高校生にとって今や必需品となったスマホだけに、光と影を家庭だけではなく、学校でも指導していかねばならない。今回、スマホによる「いじめ」で全国的にもマスコミに取り上げられた高校で、「いじめ」を発見した時の心のケア、マスコミ対応等、現代の学校危機管理の重要な要因を講演した。			
16) ブルーマンデーを克服する (講演) 学校厚生会 淡路青年部	2015年8月	団塊世代の大量退職に伴い、教員の大量採用時代が続いている。残念ながら採用の競争率が低く、以前なら不合格となるような人材も現場に入ってきた。さらに、保護者との連携や対応も日々難しくなってきた。教員の中には月曜日を迎えることに不安や恐怖を抱く者もいる。そこで、淡路で採用された小・中学校若手教員に、サザエさん症候群とも言われる不安症の克服法を講演した。			
17) 幼小連携の実践例 (講演) 聖和短期大学	2016年1月	多くの場合、幼小連携は年長と小1で実施されている。小学生にとっても自己有用感を育むために年齢差を大きく広げ、年少と6年生で実践した。明石市は市内28小学校全てに幼稚園が併設されている。この地の利を生かした実践を講演した。			
18) 箕面自由学園研究会 (指導助言)	2016年2月	箕面自由学園では国語科での「ことば」を大切に自分の気持ち、意見を伝え合うとともに、思考力を可視化しようとした先進的な研究を続けている。高学年部会での指導助言を行った。			
4 その他教育活動上特記すべき事項					
明石市教育委員会 教育研究所 スーパーバイザー	2016年4月	明石市教育委員会 教育研究所スーパーバイザーとして学校・幼稚園等教職員の資質向上に向けた講演・研修を継続			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

心理学を生かしたクラスづくり	単著	2015年6月	株式会社ERP ISBN978-4-907104-3		
心のケアハンドブック	単著	2011年5月	明石市教育研究所・神戸新聞		
論文					
「受けるより与える方が 幸い」を実践できる子ども の育成（ピアサポート）	単著	2015年4月	第21回日本教育弘済会 教育研究論文 全国優良賞 受賞		
ピアサポート活動による 人間関係づくり	単著	2011年11月	月間「兵庫教育」 兵庫県教育委員会		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2005年4月	臨床心理士会員				
2005年4月	学校心理士会員				
2009年4月	上級教育カウンセラー 日本教育カウンセラー協会会員				
2014年4月	ガイダンスカウンセラー 日本スクールカウンセリング推進協議会員				
2011年4月	明石市教育研究所 講師				
2016年4月	明石市教育委員会 教育研究所 スーパーバイザーとして学校・園に教師のスキルアップを支援。				
2016年4月	ERP主催 教師力向上委員会 理事				